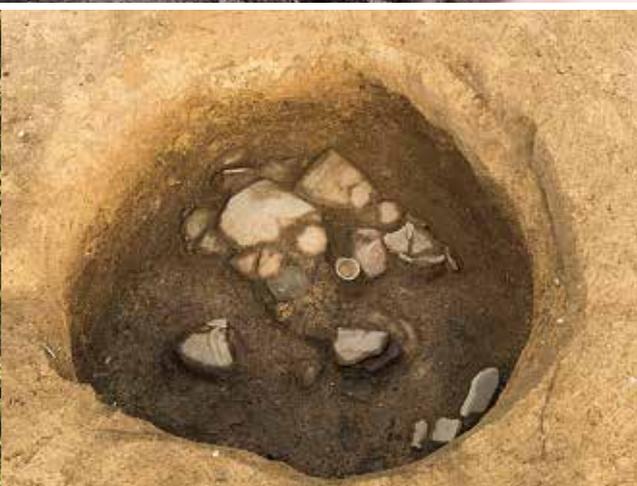


平成二十七年年度

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 発掘調査速報会

# 発掘やまがた最前線

2015



## 発掘やまがた最前線 2015

主催 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター  
 共催 山形県教育委員会  
 後援 山形市教育委員会  
 日時 平成 28 年 2 月 28 日 (日)  
 会場 山形県生涯学習センター遊学館  
 1 階ギャラリー 遺物展示  
 2 階ホール 受付・パネル展示・速報会



次第 12:00 開場  
 13:00 開会の挨拶  
 13:10 特別報告  
 「山形城本丸・二の丸跡の発掘調査」  
 山形市教育委員会  
 13:40 平成 27 年度調査事業の概要説明  
 13:50 調査報告  
 (1) 押出遺跡第 6 次  
 (2) 羽黒神社西遺跡第 2 次  
 14:30 休憩・出土品見学  
 14:50 (3) 上竹野遺跡  
 (4) 山形城三の丸跡第 16 次  
 (5) 山形城三の丸跡第 17 次  
 質疑応答  
 16:00 閉会

### 平成 27 年度山形県埋蔵文化財センター発掘調査遺跡一覧

遺跡名	調査回数	所在地	時代	調査面積	調査日程	起因事業
押出遺跡	第 6 次	高畠町 大字深沼	縄文	125m <sup>2</sup>	11/2 ~ 12/25	東北中央道 (南陽高畠山形上山) に係る付け替え水路工事
羽黒神社西遺跡	第 2 次	村山市 大字名取	縄文・平安	3,400m <sup>2</sup>	5/25 ~ 11/20	東北中央自動車道 (東根~尾花沢)
上竹野遺跡		大蔵村 大字清水	縄文・弥生	3,650m <sup>2</sup>	6/1 ~ 11/13	一般国道 458 号道路改良
馳上遺跡	第 7 次	米沢市 大字川井	古墳~中世	600m <sup>2</sup>	11/2 ~ 11/20	道の駅「(仮称) よねざわ」 建設事業
山形城三の丸跡	第 16 次	山形市 大手町 城北町	奈良~近世	1,400m <sup>2</sup>	6/5 ~ 12/4	一般国道 112 号霞城改良
山形城三の丸跡	第 17 次	山形市 旅籠町	奈良~近世	1,339m <sup>2</sup>	5/25 ~ 11/12	山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅籠町八日町線

表示写真：上段より押出遺跡・羽黒神社西遺跡・上竹野遺跡・山形城三の丸跡第 16 次・同第 17 次

山形城本丸西堀跡は、霞城公園の旧野外音楽堂前周辺にあった本丸堀を指します。本丸堀は明治時代に埋め立てられ、その姿はよくわかりませんでした。絵図によると西堀は途中で屈曲し、その部分に埋門うづみもんがあったと考えられます。

埋門の跡は旧陸軍時代の改変などで確認できませんでした。堀をはさんだ二の丸側に埋門土橋うづみもんどばしが見つかりました。長さ約 17m、幅約 13m、堀底からの高さ最大約 3.5m の舌状の土橋で、元々の地盤を掘り残したものです。すそに石垣はなく、土羽どほ（土壁）仕上げで、保存状態は良好です。しかし、最上部は削られ通路は明らかにできませんでした。土橋上面には井戸跡・土坑・溝跡などがありましたが、江戸時代初期の最上氏時代の遺構と考えられます。

西堀跡の埋門屈曲部の南側から崩落石垣が見つかりました。この石垣は一部の絵図にしか描かれませんが、埋門を監視する櫓やぐらの土台石垣と考えられます。矢穴や欠きこみ補修跡が残る石垣で、江戸時代後半（18 世紀後半～）の技法が認められます。周辺からは黒瓦しやちほこの鯰しやちほこ（尾部）が出土しました。崩落石垣の上部土塁に櫓が存在したことを示す貴重な発見です。

本丸御殿は、山形城の本丸にあった中心的

な建物です。御殿跡中央部では井戸跡を検出しました。直径が約 2.5m で確認面からの深さは約 2.5m ありました。井戸跡に石組はなく、川原石が廃棄され、さらに大量の瓦が捨てられていました。瓦はすべて黒瓦で、少量の金箔瓦のきがわらのほか、軒瓦の文様から少なくとも 2 時期の瓦群が混同して廃棄されたものと推測されます。御殿の絵図にはいくつかの井戸が示されていますが、今回調査した井戸跡と絵図が重なるのか今後検討が必要です。

（山形市教委 五十嵐貴久）



本丸御殿跡及び本丸西堀・西土塁跡の調査区



本丸御殿跡の井戸跡から出土した金箔瓦（軒平）。最上氏時代のものと考えられます。



本丸御殿跡の井戸跡とその検出状況です。礫と瓦が集中して廃棄されています。

# 史跡 山形城二の丸跡

やま がたじょう に まる あと

—発見された工房と  
石垣—

山形市

山形城の二の丸の発掘調査は、主に南側のエリアで実施されております。

二の丸平坦部での調査は様々な成果がありますが、最近のトピックは16世紀末から17世紀初頭（近世初頭）に行われた城郭の大規模改修時の金属生産遺構が見つかったことです。小規模ですが鉄を溶かすための炉跡のほか、燃料の炭、炉壁、フイゴの羽口などが出土しました。

二の丸土塁では、公園園路の整備に伴って調査が行われています。その結果、それまでは土中に埋もれて姿が見えなかった隅櫓の石垣が発見されました。南東隅の巽櫓と南西隅の坤櫓の石垣です。これらの石垣は、土塁の頂上に築かれていました。坤櫓の場合、検出されたのは最大で高さが1.4m、石材3段分でした。江戸時代の城絵図によると本来の高さは最大で約2.5mあったこととなりますので、半分以上が失われていたこととなります。また、櫓や土塁への昇降のための階段である雁木も二の丸南門エリアで検出されています。このような石垣の調査の結果、現在二の丸に現存している東西南北4カ所の城門石垣と隅櫓石垣の構造が大きく異なることがわかりました。隅櫓石垣は、土塁上に積まれているため高さが2m前後ですが、城門石垣は堀から立ち上がるので10m以上あります。また隅櫓石垣の加工特徴は、隅角石が算木積みの傾向を示していますが規格化されず、石の割り方は矢穴を用いて割るのではなく、おそらく玄翁という金槌の一種で割っています。城門石垣は、算木積みが完成されており、矢穴をあけて石材を割っており、表面にノミによる調整が入っています。このように、主に加工度を比較すると隅櫓石垣より城門石垣の方が加工度が高いと言えます。石垣の築造年代は、双方の石垣とも

に元和8年（1622）に山形城主となった鳥居氏以降だと考えられます。

（山形市教委 齋藤仁）



金属生産遺構です。炉跡が2基検出されました。



坤櫓石垣です。手前に見えるのが、雁木(階段)です。



南大手門雁木です。下斜面の一部分が検出されました。

押出遺跡の第6次調査は、これまでの調査区より11mほど南の位置で行いました。第1～4次調査で見つかった盛土遺構や打ち込み柱・杭などが、今回の調査区でも確認されました。盛土遺構とは、よそから持ち込んだ土や砂・粘土などを積み上げてマウンド状に造成したものです。遺跡の立地する、大谷地と呼ばれる湿地の西側だけでなく、南側にも盛土遺構が作られたことが分かりました。

盛土遺構の周囲には、当時使われた土器や石器が多数廃棄されていました。また、盛土遺構は2・3基が隣り合っていますが、それらの間が当時の廃棄物や土によって埋まってしまい、最終的には一つの盛土として利用したようです。

盛土の内部・周囲には多数の柱、あるいは杭が打ち込まれています。これらの性格は、住居の壁や柱とする説と、盛土を安定させるための土留の杭とする説があります。深いものでは2mに達する場合もありますが、多くは80cm下方から始まる硬い粘土層を目指して打ち込んだようです。

出土した遺物には、縄文土器・石器・木製品などがありますが、特に注目されるのは鼓形



盛土遺構の断面です。砂や粘土が積み上げられていました。

の彩漆土器です。ほぼ完全な形で出土しました。全面に赤漆を塗り、その上に黒漆で渦巻きなどの文様を描いています。また、上から見ると円形ではなく、角丸方形となっています。この土器は関東地方の土器の器形・文様をもっており、遠隔地との交流があったことを示すものです。これまで押出遺跡で出土した彩漆土器にはなかった器形であり、大変貴重なものと言えるでしょう。

また、さらに1.5mほど深い層から縄文時代早期の土器・石器などが出土しました。

湿地のそばにどのような集落が営まれたのか、大きな謎ですが、調査で得られた記録・資料をもとに検討していくことになります。

(水戸部秀樹)



盛土遺構の周囲には、土器や石器がたくさん廃棄されていました。



鼓形の彩漆土器です。赤色は退色が進みやすいため次第に鮮やかさが失われていきました。

羽黒神社遺跡は、村山市の名取字清水<sup>しず</sup>にあります。遺跡は、河島山丘陵の東側に張り出した舌状の丘陵地に位置しています。

昨年度の発掘調査では、縄文時代中期を中心とする大量の土器や土偶、袋状土製品（土笛）、打製・磨製石器とともに、フラスコ状土坑や盛り土状遺構などの遺構が発見されました。今年度は、昨年度設定した3・4区、そして南側の拡張区の5区と北側の拡張区である6区の調査を行いました。

3・4区では、合計13基の大小のフラスコ状土坑、および遺物集中部と重複する盛り土状遺構が2基確認されました。フラスコ状土坑は、大きいもので深さ2.5m以上で幅2m以上のものもありました。これらの土坑の大半は、下から3/4程度まで意図的に埋められていました。埋め土の中からは、大量の木炭と、土器や石器などの遺物が出土しました。埋め土の中の木炭や遺物と、盛り土状遺構や遺物集中部と周辺の焼土遺構との関係から、盛り土状遺構はフラスコ状土坑を掘った時の残土置き場であり、そしてその残土を使って土坑を埋めたあとに残った土である可能性が高いことがわかりました。

フラスコ状土坑のなかには、完形で大型の深鉢形土器2点と浅鉢形土器1点が出土したものや、底面にすだれ状の圧痕があるものなどが確認されました。

また、3区では、1間×4間の掘立柱建物跡が1棟確認されました。建物跡の内側には、焼土遺構があり、また縄文時代中期の土器や石器などの遺物も多く出土しました。昨年度まで、ヒトが住んでいた場所が不明でしたが、今回の調査では、住居跡を特定することができました。また、北側の6区では、数個の川原石<sup>いしがこいろ</sup>を丸く囲った石囲炉も確認されました。

今年度の調査では、昨年度と同様に、大量の縄文中期土器や石器とともに、数点の土偶や縄文早期の土器片も出土しました。今年度は、縄文晩期の土器片も少数ですが出土しました。また、6区の南側では、墨書<sup>ぼくしよ</sup>された赤焼土器（坏）1点が出土した、楕円形の土坑が1基確認されました。この土坑は、平安時代のお墓であった可能性が考えられます。

（大場正善）



今年度は、調査区の東側3・4区の遺構精査と、南の5区と北の6区の調査を行いました。



3区で発見された大型フラスコ状土坑は、深さ約2.5mで、上部がすぼまり、床が広がっています。



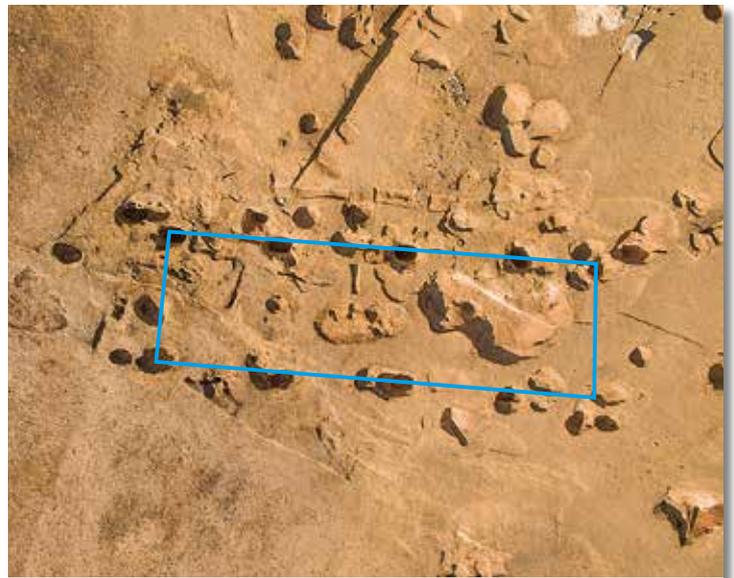
3区の大型フラスコ状土坑のなかには、深鉢形土器が逆さに置かれているものがありました。



3区東側にあるこのフラスコ状土坑の底面からは、すだれ状の圧痕が発見されました。



3区の西側で、フラスコ状土坑の残土が盛られた盛り土状遺構が発見されました。



3区では、1間×4間の掘立柱建物跡が1棟発見されました。



4区でも、クロボク土層を覆う盛り土状遺構が発見されました。



6区では、墨書された赤焼土器が出土した、平安時代のお墓と考えられる土坑が発見されました。

上竹野遺跡は、最上川へ合流する銅山川の河岸段丘の西側に位置しています。時代は縄文時代と弥生時代になります。

遺跡は古くから地元の方に知られており、昭和29年に山形大学などによる発掘調査が行われています。また当遺跡から出土した弥生時代の瓢箪形土器などは県指定文化財になっています。

当調査では県内でも調査事例が少ない弥生時代初めの竪穴住居跡が確認され、土偶など祭祀遺物も出土したことが特に注目されます。

調査では、弥生時代の遺構や遺物の他に、縄文時代前期・中期の遺物や、後期の遺構な



北から見た調査区（手前より1・2・3区）です。



後期後葉のST1 竪穴住居跡です。



小型のST38 竪穴住居跡とSB95 掘立柱建物跡

ども確認されました。

縄文時代の主な遺構ですが、1区の北側を中心に後期後葉頃の竪穴住居跡が2棟、掘立柱建物跡が1棟、捨て場や土坑などがあります。ST1 竪穴住居跡は直径約6mの円形の住居跡です。中央には炉跡があり主に4本の柱で上屋を支えていたと思われます。北側には同じ時期と考えられるやや小型で楕円形状のST38 竪穴住居跡や4本の柱で構成される一辺が約4mのSB95 掘立柱建物跡が確認されました。

弥生時代の遺構ですが、弥生時代前期から中期前半頃と思われる竪穴住居跡2棟や、捨て場が5カ所にわたり確認されました。2区のST202 竪穴住居跡は直径が約8mと大型で、覆土に大量の土器や石器が捨てられていました。土版などの土製品も出土しています。

1区のSF136捨て場を掘り下げたところ、捨て場の下にST194 竪穴住居跡が確認されました。石囲炉いしがこいろが備えられています。3区3区のSF60捨て場では、弥生土器が大量に廃棄されており、捨て場の底面近くからは赤彩が施された土偶が出土しました。土偶は頭部は失われているものの、その下はほぼ完全な状態で残されていました。水平に安置されたような状態で出土しています。

出土した遺物ですが、弥生時代の遺物が最も多く出土しました。弥生土器には、煮炊きに使用する甕かめや深鉢ふた、蓋、食物などの盛り付けに用いたと思われる鉢や高坏、貯蔵用と思われる壺が見られます。石器では石鏃せきぞく、石筥いしべら、磨石すりいし、凹石くぼみいしなど縄文時代と同様の石器が使用されています。

次年度は引き続き弥生時代の竪穴住居や捨て場の調査を行う予定です。（菅原哲文）



弥生時代の ST202 竪穴住居跡の遺物出土状況



捨て場から出土した様々な弥生土器



SF60 捨て場の土偶の出土状況です。隣からは黒色の壺が出土しています。

山形城三の丸跡の第16次調査は、三の丸北側の国道112号に沿った区域を2箇所の調査区に分けて行いました。M区が城北町、P区が大手町の調査区で、並行して調査を実施しました。

両区とも遺構が確認出来る土の面からは、奈良・平安時代から近世・近代まで、各時代の遺構や遺物が見つかり、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子がわかりました。市街地の建物の跡地でしたが、現在の地面から1m程深かったため、後世の攪乱を免れていたようです。

遺構が最も多く見つかったのは、P区とした大手町交差点の近くの調査区で、近世の水路と思われる石組み施設などが検出されました。またそのさらに下からは、奈良時代の竪穴住居跡も見つかりました。一辺が8m程の方形の大型住居跡で、カマドと言われる煮炊き用の施設が検出されました。また城北町のM区では石を組んだ井戸跡や動物の骨（馬か？）が入った穴などが見つかりました。

遺物としては、16世紀末～17世紀初頭に愛知・岐阜県や佐賀県で焼かれた陶器類が出土しました。中には完全に近い形のものも



城北町の調査区のM区から、石を組んだ井戸跡が検出されました。

含まれており、最上氏の時代に関係した遺物と思われます。その他に江戸時代の瓦や陶磁器類などが、多数出土しました。

江戸時代には武家屋敷となっていた一帯は、古代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤に城下町が形成され、近代の山形市街地につながったと考えられます。今回調査した三の丸跡の北側は、後世の開発があまり進まなかったためか、土が厚く堆積しており、遺構や遺物が良好な状態で残っていました。（小林圭一）



大手町交差点近くのP-1区では近世の石組みの水路が検出されました。コンクリートの基礎の間に水路が残っていました。



左写真の下を掘ったところ、奈良時代（8世紀前半）の竪穴住居跡北側のカマドが見つかりました。住居の南側はコンクリートの下に潜っていました。

山形城は14世紀に<sup>しばかねより</sup>斯波兼頼が築いたとされる城郭で、約400年前に<sup>もがみよしあき</sup>最上義光が拡張工事を行い全国でも有数の大規模な城郭が完成しました。後に最上家が改易されると譜代大名が短期間に国替えで入れ替わり、徐々に石高を減らしていったことから、広大な城を維持することが難しくなり、武家屋敷地であった広大な三の丸内部は徐々に耕地化します。しかし七日町口は三の丸の大手門であったため、武家屋敷地として幕末まで存続しました。

今回の調査は、広域都市計画道路建設のために昨年度から引き続き実施されたもので、1,339㎡を対象としました。

三の丸の外であった7区からは、中世と思われる竪穴建物跡や江戸時代の廃棄坑と思われる遺構が検出されています。

2区では三の丸の堀跡を調査しました。正

確な堀幅は確認できませんでしたが、15m程度であると見られます。深さは現地表面から2mほどです。底から江戸時代中期以降の陶磁器や瓦の破片が出土しました。中には堀の流水によって流され、割れ口が摩耗したものも見られました。

8区からも中世と思われる竪穴建物跡が見つかりました。他にも近世初期とみられる東西方向に並行した溝跡がありました。また、昨年調査した幅4mほどの大溝の続きも確認しました。南端は石組みが組まれており、東に曲がっている可能性もありますが、近現代の攪乱により削平され確認できませんでした。

9区では近世木棺墓<sup>もつかんぼ</sup>などが検出されました。

次年度も残りの調査区を発掘して昨年度の調査成果も合わせて検討します。

(齋藤健)



8区で検出された中世の可能性が高い竪穴建物跡。



8区 SD39 大溝南端に川原石を積み上げた石組。



8区で検出された東西方向に並行する2本の溝跡。



9区で検出された火葬骨が埋葬された木棺墓。

# 山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	● : 27年度発掘調査遺跡 県内の主な遺跡		山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代	上屋地 (飯豊町) 清水西 (村山市) 越中山 (鶴岡市) 小国東山 (小国町)	弓張平B (西川町) お仲間林 (西川町) 金谷原 (寒河江市) 角仁山 (大石田町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	章創期	日向洞窟 (高畠町) 火箱岩洞窟 (高畠町) 大立洞窟 (高畠町)	隆起線文土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める 堅穴住居による小集落が形成される 漆を使って文様を描いた土器がつくられる 計画的な大集落があらわれる	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	農耕牧畜が起こる	
		早期	にひやく寺 (山形市) 北原4 (村山市)	いるかい (尾花沢市) 坂ノ上 (山形市)	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる 落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる 関東地方に貝塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュヨク成立 (約6000年)	
		前期	● 押出 (高畠町) 高瀬山 (寒河江市)	小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	環状集落が発達する	とうもろこし栽培のはじまり メキシコ (約5000年)	
		中期	● 西ノ前 (舟形町) ● 羽黒神社西 (村山市) 小反 (鮭川村) 空沢 (長井市) 高瀬山 (寒河江市)	西向 (鶴岡市) 西海淵 (村山市) 中川原C (新庄市) 熊ノ前 (山形市) 山居 (西川町)	堅穴住居に複式炉が作られる	模形文字が使われる (約3500年) ピラミッドが作られる (約2650年) インダス文明がおこる (約2500年) 殷王朝がおこる (約1600年) 孔子生誕 (552年) 仏教成立 (450年) アレクサンダー大王生誕 (356年) 秦王朝がおこる (221年)	
		後期	北原2 (村山市) 高瀬山 (寒河江市) 川口 (村山市)	小山崎 (遊佐町) かっぱ (最上町) 砂子田 (天童市)	集落が減少する	配石遺構がさかんに作られる	
		晩期	宮の前 (村山市) 作野 (村山市) 森の原 (村山市)	下叶水 (小国町) 金淵C (真室川町) 北柳1 (山形市)	中国製青銅刀がもたらされる 鳥海山が噴火する (前466年)	亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりはじまる	
		AD1年 300年	弥生時代	● 上竹野 (大蔵村) 百刈田 (南陽市)	生石2 (酒田市) 庚壇 (南陽市)	米づくりがはじまる 機織りがはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現 (230年頃) 環濠集落の発展 前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国に広まる
古墳時代	畑田 (鶴岡市) 玉作2 (鶴岡市) 鎌倉上 (米沢市) 馳上 (米沢市) 今塚 (山形市) 蔵増宮田 (天童市) 板橋2 (天童市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南原 (高畠町) 廻り屋 (白鷹町)		比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 寶領塚古墳 (米沢市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳群 (山形市) 服部・藤冶屋敷 (山形市) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋2・3 (川西町) 百刈田 (南陽市) 中里 (米沢市)	東北最大の円墳がつくられる 小規模な古墳群がつくられる 大規模な集落があらわれる 蜂子皇子、羽黒山・月山を開山 (590年)	須恵器がつくられだす	ゲルマン民族大移動 (375年) 南北朝時代 (439年)	
600年	飛鳥代	北目古墳 (高畠町) 安久津古墳群 (高畠町)	羽山古墳 (高畠町) 長手古墳 (米沢市)	湯殿山開山 (605) 出羽郡が建郡される (708年) 出羽郡が設けられる (709年) 出羽国が建国される (712年) 出羽郡が秋田村高清水岡に移転する (733年)	聖徳太子摂政となる (593年) 十七条憲法を制定 (604年) 平城京に都をうつす (710年) 東大寺の大仏開眼 (752年) 長岡京に都をうつす (784年) 平安京に都をうつす (794年)	マヤ文明絶頂期 (600年) 唐王朝がおこる (618年)	
700年	奈良時代	二色根古墳 (南陽市) 不動木 (河北町) 一ノ坪 (山形市)	牛森古墳 (米沢市) 木和田窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市)	慈恩寺建立 (746年) 出羽国大地震 (850年) 立石寺が開山 (860年) 鳥海山が噴火する (871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる (886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る (915年)	将門・純友の乱 (935・939年) 藤原氏の全盛 (1016年)	李白・杜甫・楊貴妃らが活躍	
800年		平安時代	北原2 (村山市) 清水 (村山市) 八幡一 (川西町) 元宿北 (川西町) 八反 (東根市) 蟬田 (村山市) 松橋 (村山市) 沼袋 (東根市) 経塚森 (村山市) 田向2 (村山市) 沼田2 (村山市) 南口A (庄内町) 山田 (鶴岡市) 川前2 (山形市・中山町) 小松原窯 (山形市)	城輪柵 (酒田市) 俵田 (酒田市) 八森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 下長橋 (遊佐町) 玉作2 (鶴岡市) 的場 (天童市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・畑ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三條 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 今塚 (山形市) 三本木窯 (山形市)	荘園の成立	前九年合戦はじまる (1051年) 後三年合戦はじまる (1083年)	カール大帝戴冠 (800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる (918年) 宋王朝がおこる (960年) 神聖ローマ帝国の成立 (962年)
1200年	鎌倉時代	八幡一 (川西町) 大桶 (遊佐町) 沼袋 (東根市) 執行坂窯 (鶴岡市)	長表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市)	斯波兼頼が山形へ入部 (1356年)	鎌倉に幕府をひらく (1192年) 南北朝の動乱 (1336年) 室町に幕府をひらく (1338年)	モンゴル帝国樹立 (1206年) マグナカルタ制定 (1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる (1337年) 明王朝がおこる (1368年)	
1400年	室町時代	柳沢A (鶴岡市) 沼袋 (東根市) 小田島城 (東根市)	高松II (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町)	最上義光が最上家第11代当主となる (1570年) 義光の娘・駒姫処刑される (1595年) 出羽合戦 (長谷堂合戦1600年)	種子島に鉄砲伝来 (1543年) 織田信長安土城築城 (1576年) 豊臣秀吉の天下統一 (1590年) 関ヶ原の戦い (1600年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周 (1522年) ガリレオが活躍 (1564年)	
1500年		安土・桃山時代	出張坂城 (鶴岡市) 木の下館 (鶴岡市) ● 山形城三の丸 (山形市) 稲荷山館 (米沢市)				大宝寺城 (鶴岡市) 白鳥館 (村山市) 米沢城 (米沢市) 亀ヶ崎城 (酒田市)
1600年	江戸時代	● 新庄城 (新庄市) ● 山形城三の丸 (山形市) 双葉町 (山形市) 洪江 (山形市) 坂ノ上 (山形市)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 三條 (寒河江市) 南台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 横嶋橋 (西川町)	最上義光没する (1614年) 最上氏改易 (1622年) 上杉鷹山、米沢藩藩主に (1767年)	徳川家康江戸に幕府をひらく (1603年)	清王朝がおこる (1636年) アメリカ独立 (1776年) フランス革命 (1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位 (1804年) リンカーンが活躍 (1861年)	

